

COMMORE LIFESTYLE CATALOG #11

Buddy・Garden・Hobby・Scenery・Others

夏のニンフたち： この夏にコモアで見かけた妖精のような虫たちを紹介します

今年は滅茶苦茶暑かったですね。公正屋さんまでガリガリ君を買いに行くのに、歩きでは溶けてしまうという理由で自動車で出かけた筆者です。それでも偶の出勤日や緑道の掃除など、熱波の中を歩かなければならない日もあります。そんな時にフツと一服の清涼剤となってくれるのが、大好きな昆虫たちの姿です。コモアの生物相は多様とは言えませんが、それでも時には綺麗で珍しい虫を目にすることもあります。そんな出会いのいくつかをご紹介します。

花の上の宝石： 最初は我が家のオルレアの花にきたコアオハナムグリです。GW過ぎからヒメジョオンなどに集まりますが、

まるでエメラルドのような艶のある緑色が綺麗な小さな甲虫です。小学生の頃から昆虫図鑑のお気に入りでしたが、東京ではなかなか見つからなくて憧れの妖精でした。



コアオハナムグリ

ポップなセロハン紙： 次はウスバカゲロウの成虫です。写真は四方津駅2番線ホームでの撮影ですが、団地内でもときどき見かけました。まるでキャンディの包み紙のようなポップな翅が特徴的なお洒落ですが、顔つきは少しグロが入っています。そして幼虫はさらにグロい奴で、なんと！軒下の砂地に暮らすアリジゴクなんです。ところでこんな綺麗な虫ですから、名前を漢字記載する際にはきちんと変換してあげてくださいね。この虫の漢字の本名は「薄羽蜻蛉」なんです。漢字への変換ミスして「薄馬鹿下郎」では可哀想すぎますよ！



ウスバカゲロウ(成虫)

ヒョウ柄の羽衣の天女： 最後は近年コモアでよく見かけるツマグロヒョウモンです。この蝶はタテハチョウの仲間、モンシロチョウより大きく、アゲハよりは小型、それほど高くは上がらずにフワフワと飛んでいます。雄は翅全体がオレンジ色でヒョウ柄の模様が入るのに対して、雌では前翅先端に白と黒の大きな柄が入っているのが特徴です。昆虫や動物の世界では雄の方が派手な色彩が多いのですが、この種では雌の方が見応えあり！ですね。

コモアなどの住宅地でこの蝶をよく見かけるのは幼虫の食草がスミレ類で、団地内にパンジーやビオラなどのスミレ科の草本類が多く植えられているからかも知れません。さらに年4回ほど産卵期があるため、爆発的に増えているのだと考えられます。ただし我が家の庭での観察では、葉の尖った所謂普通のスミレ(フツウスミレ)の方が葉の丸いタチツボスミレよりも食害が少ない傾向です。



ツマグロヒョウモン雄(左上)雌(右)幼虫(左下)

他にも今年の夏は特定外来種の「アカボシゴマダラ」が飛翔しているのを何度か目撃しました。

強い日差しの中では虫や花を探す余裕がなかなか出てきませんが、コモアの生物多様性がどんな状況なのかを住民が知っておくことは、環境保全や環境再生、延いてはコモアの魅力アップへの手がかりになるのかな？と筆者は思っているのです。

コモア ライフスタイル カタログは、仲間・庭・趣味・風景・その他のコモアしおつ住民の共通する話題をピックアップすることで、住民間の意見交換を活性化し、魅力的な街を再生することを目指すツールです。年数回不定期に発行し、コモア内に掲示・回覧すると共に、ウェブ「コモアの風」へのアップを行います。ご興味のある方、ご意見のある方は街並み保全実行委員会編集担当[clsc.editorial@gmail.com]までお知らせください。